

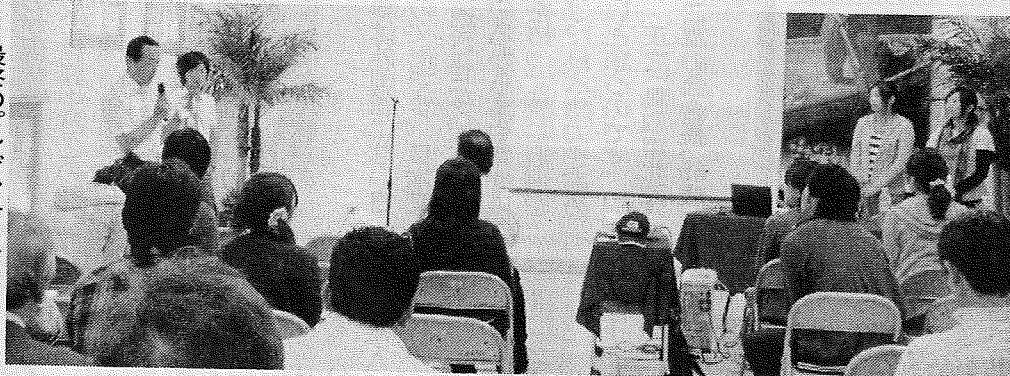
ラパスの便り

鳥大メキシコ海外実践教育カリキュラム

広範囲に及ぶ教育内容 自らを変える契機に

本名 俊正

鳥取大学の「メキシコ海外実践教育カリキュラム」が、今月上旬に大きな成果を上げて無事終了した。メキシコ



最終のプレゼンテーション

コでの修了式では両国 手を取り合って喜びをの学生・教職員が共に 分かち合っていた。祝

の實踐教育が両国の新ても積極的に取り組むたな教育モデルとして「ことにより」「自分自身取り組まれている。が大きくかわる」こと教育の内容は年々充を認識することができ実してきており、メキたことであろう。大学シコの社会・文化ととの中で学ぶことともにもに生態環境、海洋、に、社会の中で自ら体エネルギー、国際支援 験する教育がこれから等の広範囲に及んでい ますます重要になってくる。現地調査を行い、

自ら学んでまとめ、発 世界は広い。今後、多くの若人は地球人と賀会でのメ生も参加しており、おしての広い視野を持つキシコの学互いに交流を進めなが て世界各地で活躍する生による伝ら、異文化の魅力と社 ことになる。乾燥気候統的な舞踊 会のありよつを率直に のメキシコと湿润気候も感動的で とらえ学んでいた。の日本とは自然も生活あり、あら 教師陣は鳥取大学12 もあらゆることで異なためて異文 人、メキシコ側10人、 っている。異文化を知化の魅力に カリフォルニア大学3 り、交流し、理解する。新鮮な驚き 人で、職員を含めて30 対比の中で学ぶことはを感じた。 人を越える大勢の人々 無限にある。ラパスの

おおよそ の支援をいただいた。 町中で積極的に現地の30年前、鳥 授業も学生によるア メキシコ人にアンケー取大学がメ レゼンテーションも質 トを実施する鳥大生はキシコ・ゲ 疑心答もすべて英語で 実にたくましく、ほほレロネグロ 行われた。3カ月間の 笑ましく、大いなる可で農学部を 集中的な研修の効果は 能性と期待を感じさせ中心に乾燥 絶大で、特に語学力の るものだった。地農業の研 向上と自立心の形成、 鳥取大学もメキシコ究を開始し そして多面的な視野の 側も今後さらにこの地てから、両 形成のための契機とし 球時代の新しい教育ア

国間で多様 ても重要な教育プログ ラムであった。 ログラムを充実し交流な共同研究 ラムであった。 を発展させたいと考えが行われて によりも「自ら学 ている。来年も楽しみがっている。 である。現在さら 学生を大きく変える契 機となることが実感さ 学長) (鳥取大学理事・副

(おわり)